

第6学年外国語活動学習指導案

学校名：津市立美杉小学校

1 単元名 We are good friends.

(Hi, friends2 Lesson7)

—オリジナル物語を紹介しよう—

2 単元目標

- (1) 積極的に英語で物語の内容を伝えようとする。
- (2) 桃太郎やオリジナルの劇に使われている表現に慣れ親しむ。
- (3) 世界や日本の物語に興味をもつ。

3 活動の設定

(1) 単元について

本単元は、英語を用いた日本の昔話や外国の物語に興味を持ち、まとまった英語の話を聞いたり、場面に合ったセリフを言ったりすることに慣れ親しむことがねらいである。また、積極的に英語で物語の内容を伝えようとすることもねらいである。そして、単元の終わりには、今までに外国語活動で慣れ親しんできた単語や文章表現を生かして、オリジナルの桃太郎物語を作って発表する活動を行う。

本単元は、2年間の外国語活動の終盤に設定されているため、今までに慣れ親しんできた表現の中から児童自身が必要な表現を選び、オリジナルの物語を創作できる。創作活動を通して、自分の思いを伝える工夫をし、伝えることの楽しさを味わうことができる単元である。

(2) 児童について

本学級の児童は、2学期の学習の振り返りの外国語活動についてのアンケートでは、「外国語活動は楽しい」と全員が答えている。楽しいと感じている活動については、「ゲーム」や「クイズ」を挙げている。しかし、他の授業の様子も同様に、自分の考えを表現することや友だちや教師に聞いたり話したりする場面になると消極的になってしまい、苦手と感じる児童がいる。「英語で」となると、消極的な態度が顕著となる。

このことから、本学級の児童は、ゲームやクイズなどの活動については楽しんで行っているが、英語で相手の思いを聞いたり、自分の考えを伝えたりする活動については楽しめておらず、周りの人とコミュニケーションを図る必然性を感じていない児童がいることがわかる。

・書くことの指導（アルファベット）について

外国語活動では、書くことはあまり重要視されてはいないが、日常的にアルファベットを目にすることが多いし、中学年では文字の指導もある。1学期、本学級の児童の多くは読めるが書けない状態であった。大文字と小文字の違いなどもあやふやであった。そこで、毎時間、あいさつの中での会話の答えだけを書く時間を設定した。当初は英語ノートへ書き写すのは大変そうであったが、今では短い時間に正確に書けるようになってきている。来年度は中学校へと進学する児童にとって、英語の授業で正確にアルファベットを書くことは大変な作業だと予想される。一助となればと継続指導している。

・レゴブロックを使った活動について

レゴブロックを使った活動については、2学期から外国語活動の中で行っている。導入は、アヒル作りを行った。夢中になって取り組む児童の姿が見られた。また、完成したものが何一つ同じものがなく、個性豊かな作品が出来上がった。また、Hi, friends2 Lesson5では、行ってみたい外国の国旗や建物なども作った。出来上がった作品をもとにクイズを出し合い、楽しく活動することができた。しかし、作成するのに時間がかかったり、夢中になりすぎてコミュニケーションを図ろうとしなかったりなどの課題も見つかり、活用に工夫が必要であると感じている。

（3）指導について

本単元では、日本や世界の昔話や民話を聞かせ、物語に興味をもたせた後、日本の代表的な昔話である『桃太郎』をもとにしたオリジナルの劇を作る活動を通して、児童の創造性や表現力を高めようとするものになっている。英語ノートでは、ロシア民話である『大きなかぶ』を取り上げ、劇にすることにより、意図を相手に伝えながらコミュニケーション能力を育むことをねらいとしていた。Hi, friends2 においては、日本の昔話を伝えるということで、自国の文化に誇りを持ち、より相手意識を持ってALTや友だちに伝えることを大切にしている。

そこで、第1時では、知っている物語がどこの国のものであるかクイズをしたり、ALTに物語の一部を英語で紹介してもらう場を設定し、英語で語られる物語に興味をもたせる。そして、『桃太郎』をもとにしたオリジナルの劇を作り、低学年やALTに紹介していくことを知らせ、これからの単元の課題解決に向けての意欲をもたせる。

第2・3時では、『桃太郎』に出てくる英語表現（セリフ）を各場面や登場人物に分けて聞き取らせ、ゲームやチャンツなどを通して慣れ親しませていく。また、レゴを使ってキャラクター作りに取り組みせ、創造性を高めていく。

第4・5時では、『桃太郎』をもとにしたオリジナルの劇を作り、低学年やALTに紹介していくという相手意識をしっかりと持たせることにより、課題解決に必要な活動を考えたり、英語表現を選んだりと必然性が生まれると考える。その過程では、ペア学習やグループ学習などの交流活動の形態の場を設定する。どんなことを伝えるのか、どんな英語表

現が必要なのか、キャラクターがいいのかなど、互いに協力しながら活動に取り組ませる。

第6時では、自分たちの劇の内容がより伝わるようにと表現しようとする姿をねらいとしている。一方的な思いだけでなく、感想などを伝え合う場を設定し、体験させることにより、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成につなげていきたい。

4 指導計画（全6時間）

時	ねらい	評価観点
1	日本や世界にはさまざまな物語があることに気づく。	気づき
2・3 (本時3)	『桃太郎』に出てくる英語表現を聞いたり、ゲームを楽しもうとしたりする。 ・レゴブロックで桃太郎作る。 I'm strong! I'm brave! ・レゴブロックで新しい仲間を作る。 We are good friends. Let's go to Onigashima.	慣れ親しみ
4・5	友だちと協力してオリジナルの物語をつくり、劇づくりの既習の英語表現に慣れ親しむ。	慣れ親しみ
6	オリジナルの劇を発表したり、友だちの劇のよさを見つけたりする。	コミュニケーション

5 単元の評価規準

コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語への慣れ親しみ	言語や文化に関する気づき
英語やあらゆる方法を使って、友だちやALTへわかりやすく伝えようと劇作りに取り組んだり、意見や感想などを聞こうとしている。	『桃太郎』やオリジナルの劇に使われている表現を聞いたり、言ったりしている。	日本や世界にはさまざまな物語があることに気づいている。

6 本時の指導（3 / 6 時間）

(1) 目 標

- ・『桃太郎』に出てくる英語表現を聞き、慣れ親しむ。
- ・レゴブロックで桃太郎の新しい仲間を作り、紹介する。

(2) 指導過程

学習活動	教師の支援・留意点
<p>1 あいさつ（5分）</p> <p>(1) 英語であいさつをする。</p> <p>How's the weather? What day is it? What's the date? What time is it?</p> <p>(2) ペアであいさつをする。</p> <p>(3) 英語ノートへ書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・午後のあいさつをさせる。 ・4つの質問をする。 ・リーダー（その日の日直）に質問させ、他の児童に答えを言わせる。 Who is the leader? ・1分間で交互で会話の練習をさせる。 Make a pair. Let's start. ・質問の答えだけをノートに書かせる。 Write on your notebook.
<p>2 ウォームアップ（3分）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フォニックスをする。 ALTのあとについて発音練習をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・A-Zまでの発音練習をさせる。 ・ALTがカードを使ってさせる。
<p>3 めあてを確かめる（2）</p> <p>「We are good friends.になる新しい仲間を考えよう。」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・めあての確認をさせる。
<p>4 コミュニケーション活動（30分）</p> <p>(1) チャンツをする。</p> <p>『We are good friends.』 音声教材にあわせて言う。</p> <p>(2) P32~P33の物語を聞く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・音声教材を聞かせ、一緒に言わせる。（デジタル教材を使用。） ・どんなセリフを言うか意識して聞くように指示する。

<p>(3) 新しい仲間をレゴブロックで作る。</p> <p>(4) 仲間紹介をする。 <グループ内で> What's this?/Who are you? I'm ~.</p> <p><ALT に紹介> S:Hello,Momotaro. A:Hello. Who are you? S:I'm (新しい仲間). I'm strong and brave. I'm (特徴). A:Kibidango. Here you are. S:Thank you. S & A:We are good friends. Let's go to Onigashima.</p>	<p>(デジタル教材を使用。) Listen carefully.</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 4つのグループに分ける。 (3・3・3・4) Make 4groups. ・ 新しく加わる仲間をレゴブロックで作らせる。 ・ どんな特徴があるかも考えさせる。 ・ 出来上がったキャラクターをグループの中で紹介し合う。 友だちに英語で質問する。 What's this?/Who are you?/What's your name? 自分の作ったものを英語で紹介する。 (名前や特徴など) ・ グループごとに ALT に紹介する。 ・ HRT と ALT で紹介のやり取りを知らせる。 ・ 発声、表情なども考えて発表するように指示する。
<p>5 ふり返り (4)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ふり返りカードに記入し、感想を交流する。 ・ 次回の学習予定を聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ふり返りカードに記入させ、感想を交流させる。 ・ 指導者からもよかったところをほめる。 ・ 次の予告をする。
<p>6 あいさつ (1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 英語であいさつをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ おわりのあいさつをさせる。

(3) 評価

(外国語への慣れ親しみ)

- ・『桃太郎』に出てくる英語表現を聞き、慣れ親しむことができたか。
- ・レゴブロックで桃太郎の新しい仲間を作り、紹介することができたか。

成果と課題

①レゴブロックについて

- ・子どもたちは、楽しく活動に取り組める。しかし、作成するのに時間がかかり、友だちとコミュニケーションを図ろうとしない姿が見られた。
 - ・活用方法の工夫が必要。作品は未完成な物の方がよく、それをどのように友だちに伝えるか、そこを考えさせるのがコミュニケーションの育成につながると考える。子どもたちも自分の作品を伝えようと意欲的に取り組んでいた。
- 例：授業では、5～7分の作業時間で取り組ませた。友だちの作品を見てる側も、何を伝えようとしているかを考えさせた。

②ALTとの連携について

- ・担任が授業を進め、ALTが活動に必要な英語をシャワーのように浴びせる形態をとった。担任が困りながらも下手な英語でALTと必死に会話している姿を見て、子どもたちも安心して英語を使おうとしていた。
- ・これから、授業時間数が増えるので、ALTとの打ち合わせの時間の確保が課題。担任だけで授業を進める方法も研究していきたい。

③フォニックスについて

- ・授業では、ALTがフォニックスを指導。ALTがいないときは、DVDを使用して練習をさせた。回を重ねるごとに発音が少しずつ良くなっていった。また、なんとなくではあるが、初めての単語でも発音できるようになってきた。
- ・朝の学習の時間などで、短時間で毎日取り組むことができれば、もっと伸びることができるようになる。

④書くことについて

- ・日付、曜日、時刻、天気など、質問に対する答えを発音するだけでなく、ノート（横罫入り）に書く活動をしてきた。最初は、戸惑いもあり時間が掛かったが、かなり速く書くことができるようになった。また、大文字、小文字を意識させ、正確に書くことができるようになった。

⑤めあての振り返り

- ・めあてを提示し、最後はカードに書かせるなど、振り返りをさせた。「英語で話すことができてよかった。」「間違えたけどがんばれた。」などの感想が出された。しかし、授業の中盤、めあてから外れる児童もいるので、途中でもう一度確認をさせた方がよいと思った。